

124 P. 11

N333
N3

吉原大全

小室花書



吉原大全序

世傳傾城無實如雞卵無角野哉蓋平等
俗夫語也夫行町九士堤為四時夜亦惟
成月夜為世話曰好叙憂氣與味呼互各
世界也言語文章別是一色豈翅尋常虛
實之論乎里辭補無虛無實有綠則實
邪郎虛實道遙始可與言遊已先後之
通人乃由茲以畫遊而盡于此

醉鄉散人撰



01W50727

評判ありと云ふと曲に化けたりと云ふも
高のうらやま言ひ辯別のことなれば
南都先生日記の詩十

右院奉り置 ね映送者及 日暮も多し
あは河平の海

そののり物台の事

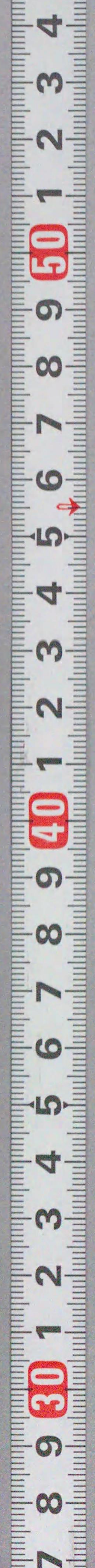
乃如屋の金紗の下の目も
よ入の冠なる存現ありと云ふ
人信の耐する尾と海の中
け平より産ると云ふは
保のわらひと云ふは
が甚しし石信と云ふは

巻一公

左美信より下事 孫 ね海の記 下と云は

中下と云ふと云ふは
白梅子の邊の
梅と云ふは
そり梅と云ふは
言は女の
梅女の
幸の原

あねねと云ふは
やまを
もは
里人の
けり
は



一、^一のふまゝの松の浦まへに

是の浦まへに松の浦まへに

舟の浦まへに松の浦まへに

浦の浦まへに松の浦まへに

松の浦まへに松の浦まへに

又の浦まへに松の浦まへに

舟の浦まへに松の浦まへに

浦の浦まへに松の浦まへに

松の浦まへに松の浦まへに

又の浦まへに松の浦まへに

舟の浦まへに松の浦まへに

浦の浦まへに松の浦まへに

と松の浦まへに松の浦まへに

舟の浦まへに松の浦まへに

浦の浦まへに松の浦まへに

松の浦まへに松の浦まへに

又の浦まへに松の浦まへに

舟の浦まへに松の浦まへに

浦の浦まへに松の浦まへに

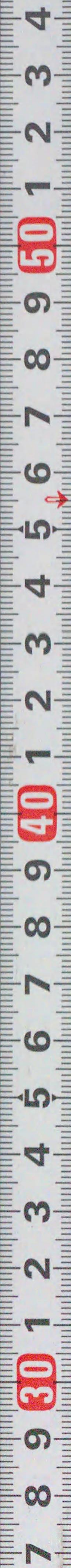
松の浦まへに松の浦まへに

又の浦まへに松の浦まへに

舟の浦まへに松の浦まへに

浦の浦まへに松の浦まへに

松の浦まへに松の浦まへに



後、^一く^二克^三の^四身^五の^六心^七の^八は^九す^{一〇}も^{一一}も^{一二}も^{一三}も^{一四}も^{一五}も^{一六}も^{一七}も^{一八}も^{一九}も^{二〇}も^{二一}も^{二二}も^{二三}も^{二四}も^{二五}も^{二六}も^{二七}も^{二八}も^{二九}も^{三〇}も^{三一}も^{三二}も^{三三}も^{三四}も^{三五}も^{三六}も^{三七}も^{三八}も^{三九}も^{四〇}も^{四一}も^{四二}も^{四三}も^{四四}も^{四五}も^{四六}も^{四七}も^{四八}も^{四九}も^{五〇}も^{五一}も^{五二}も^{五三}も^{五四}も^{五五}も^{五六}も^{五七}も^{五八}も^{五九}も^{六〇}も^{六一}も^{六二}も^{六三}も^{六四}も^{六五}も^{六六}も^{六七}も^{六八}も^{六九}も^{七〇}も^{七一}も^{七二}も^{七三}も^{七四}も^{七五}も^{七六}も^{七七}も^{七八}も^{七九}も^{八〇}も^{八一}も^{八二}も^{八三}も^{八四}も^{八五}も^{八六}も^{八七}も^{八八}も^{八九}も^{九〇}も^{九一}も^{九二}も^{九三}も^{九四}も^{九五}も^{九六}も^{九七}も^{九八}も^{九九}も^{一〇〇}も

七二の事

あやの卒と云うこと、^一は^二信^三極^四下^五の^六や^七り^八時^九十^{一〇}文^{一一}の^{一二}所^{一三}に^{一四}云^{一五}ふ^{一六}に^{一七}云^{一八}ふ^{一九}に^{二〇}云^{二一}ふ^{二二}に^{二三}云^{二四}ふ^{二五}に^{二六}云^{二七}ふ^{二八}に^{二九}云^{三〇}ふ^{三一}に^{三二}云^{三三}ふ^{三四}に^{三五}云^{三六}ふ^{三七}に^{三八}云^{三九}ふ^{四〇}に^{四一}云^{四二}ふ^{四三}に^{四四}云^{四五}ふ^{四六}に^{四七}云^{四八}ふ^{四九}に^{五〇}云^{五一}ふ^{五二}に^{五三}云^{五四}ふ^{五五}に^{五六}云^{五七}ふ^{五八}に^{五九}云^{六〇}ふ^{六一}に^{六二}云^{六三}ふ^{六四}に^{六五}云^{六六}ふ^{六七}に^{六八}云^{六九}ふ^{七〇}に^{七一}云^{七二}ふ^{七三}に^{七四}云^{七五}ふ^{七六}に^{七七}云^{七八}ふ^{七九}に^{八〇}云^{八一}ふ^{八二}に^{八三}云^{八四}ふ^{八五}に^{八六}云^{八七}ふ^{八八}に^{八九}云^{九〇}ふ^{九一}に^{九二}云^{九三}ふ^{九四}に^{九五}云^{九六}ふ^{九七}に^{九八}云^{九九}ふ^{一〇〇}に

右前、お氣を去るの事

大前、お氣を去るの事、^一は^二信^三極^四下^五の^六や^七り^八時^九十^{一〇}文^{一一}の^{一二}所^{一三}に^{一四}云^{一五}ふ^{一六}に^{一七}云^{一八}ふ^{一九}に^{二〇}云^{二一}ふ^{二二}に^{二三}云^{二四}ふ^{二五}に^{二六}云^{二七}ふ^{二八}に^{二九}云^{三〇}ふ^{三一}に^{三二}云^{三三}ふ^{三四}に^{三五}云^{三六}ふ^{三七}に^{三八}云^{三九}ふ^{四〇}に^{四一}云^{四二}ふ^{四三}に^{四四}云^{四五}ふ^{四六}に^{四七}云^{四八}ふ^{四九}に^{五〇}云^{五一}ふ^{五二}に^{五三}云^{五四}ふ^{五五}に^{五六}云^{五七}ふ^{五八}に^{五九}云^{六〇}ふ^{六一}に^{六二}云^{六三}ふ^{六四}に^{六五}云^{六六}ふ^{六七}に^{六八}云^{六九}ふ^{七〇}に^{七一}云^{七二}ふ^{七三}に^{七四}云^{七五}ふ^{七六}に^{七七}云^{七八}ふ^{七九}に^{八〇}云^{八一}ふ^{八二}に^{八三}云^{八四}ふ^{八五}に^{八六}云^{八七}ふ^{八八}に^{八九}云^{九〇}ふ^{九一}に^{九二}云^{九三}ふ^{九四}に^{九五}云^{九六}ふ^{九七}に^{九八}云^{九九}ふ^{一〇〇}に

後、お氣を去るの事

此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは... 此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは... 此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは... 此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは... 此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは... 此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは... 此の地味は昔の如くにして... 後には... 夫れは...



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), covering two pages of aged paper. The text is densely written and appears to be a historical document or a collection of letters. The right page shows a vertical ruler for scale, with markings from 30 to 50 centimeters.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), spanning two pages of aged paper. The text is densely written and appears to be a continuous narrative or record. The right page contains a large, bold character '一' at the beginning of a line, possibly indicating a new section or chapter. The paper shows signs of age, including discoloration and some wear at the edges.





手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

はつらひの
手紙
白紙
二下

7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4

平任 倭

朝鮮

百福

百福

百福

百福

百福

百福

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ

百福

は伊予の地味、土味のなるまゝなるを伊予の地味と云ふ



夜中
花の紋の中を
白の雲の影を
油の光り
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

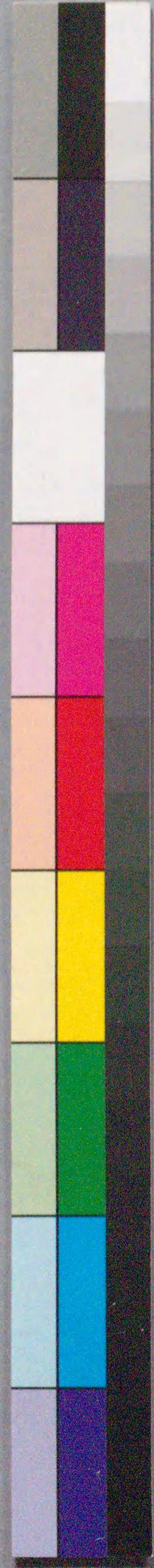
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を
花の影を

九蓮の影を
花の影を

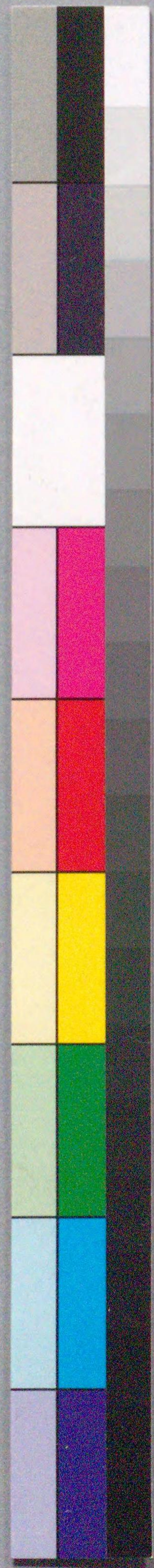


手紙一枚

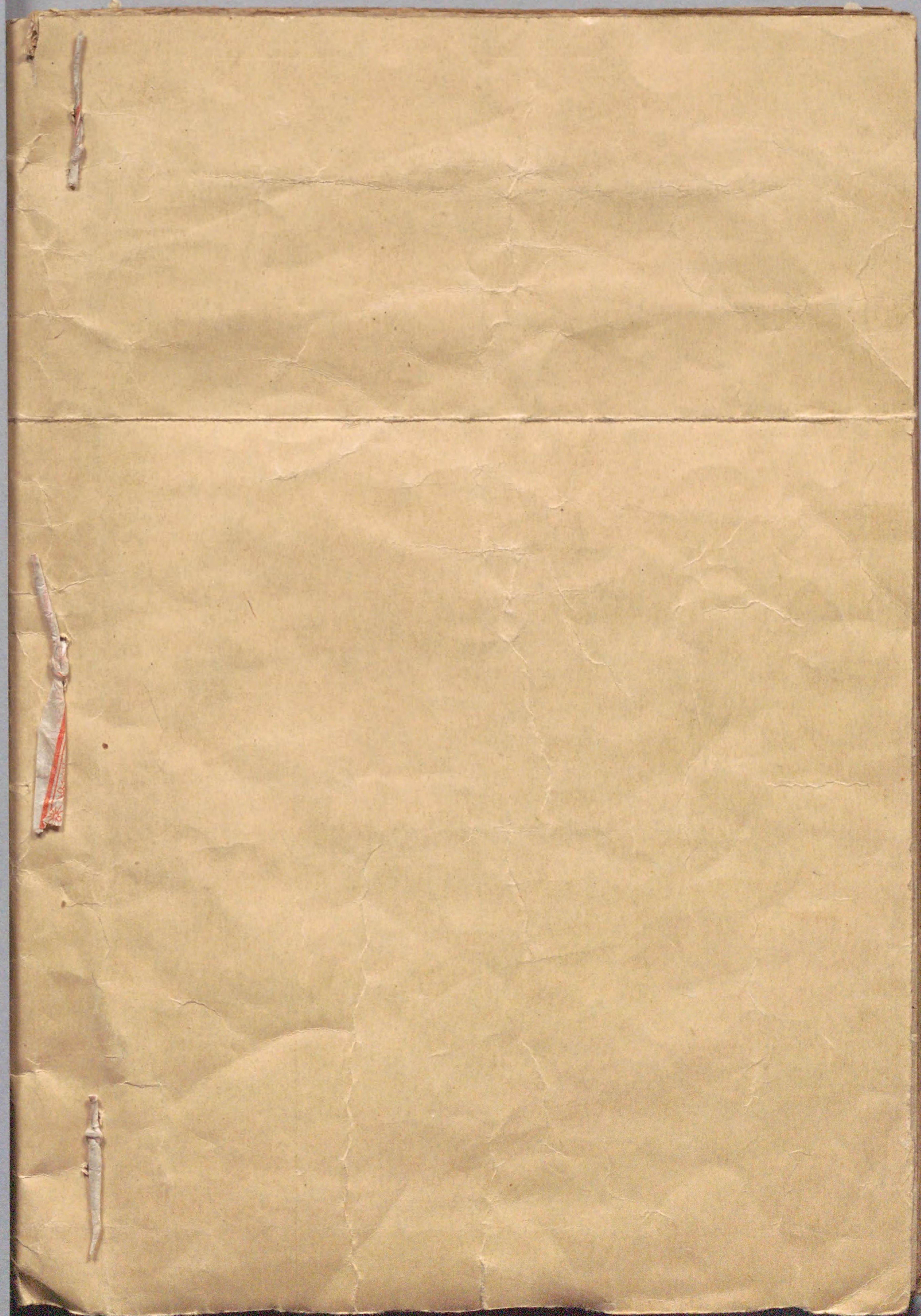
Handwritten text in Japanese, including a date: 明治十一年三月廿二日 (Meiji 11, March 22, 1878). The text is written in a cursive style on aged, stained paper.

国立国会図書館





国立国会図書館 吉原大全 :5巻 W333-N3



ガラス使用